

地域ごとの目指すべき都市づくりの主な方針（案）

地域ごとの目指すべき都市づくりの主な方針

- 兵庫の強みである五国の個性をそれぞれ活かした広域的な都市づくりの基本的な方針として、都市計画区域マスタープランの策定単位ごとに「地域ごとの目指すべき都市づくりの主な方針」を設定する
- 同方針は、「県の目指すべき都市づくりの方向性」に即しつつ、地域の特性や魅力・強み、課題を踏まえ、地域ごとに「目指すべき都市構造」及び「重点的に取り組むテーマ」を設定する

県の目指すべき都市づくりの方向性

I 持続可能な魅力と活力あふれる都市づくり

II 誰もが安全・安心に暮らせる都市づくり

III 環境と共生する都市づくり

地域の特性等

地域の特性

地域の魅力・強み

地域の課題

地域ごとの目指すべき都市づくりの主な方針

目指すべき都市構造



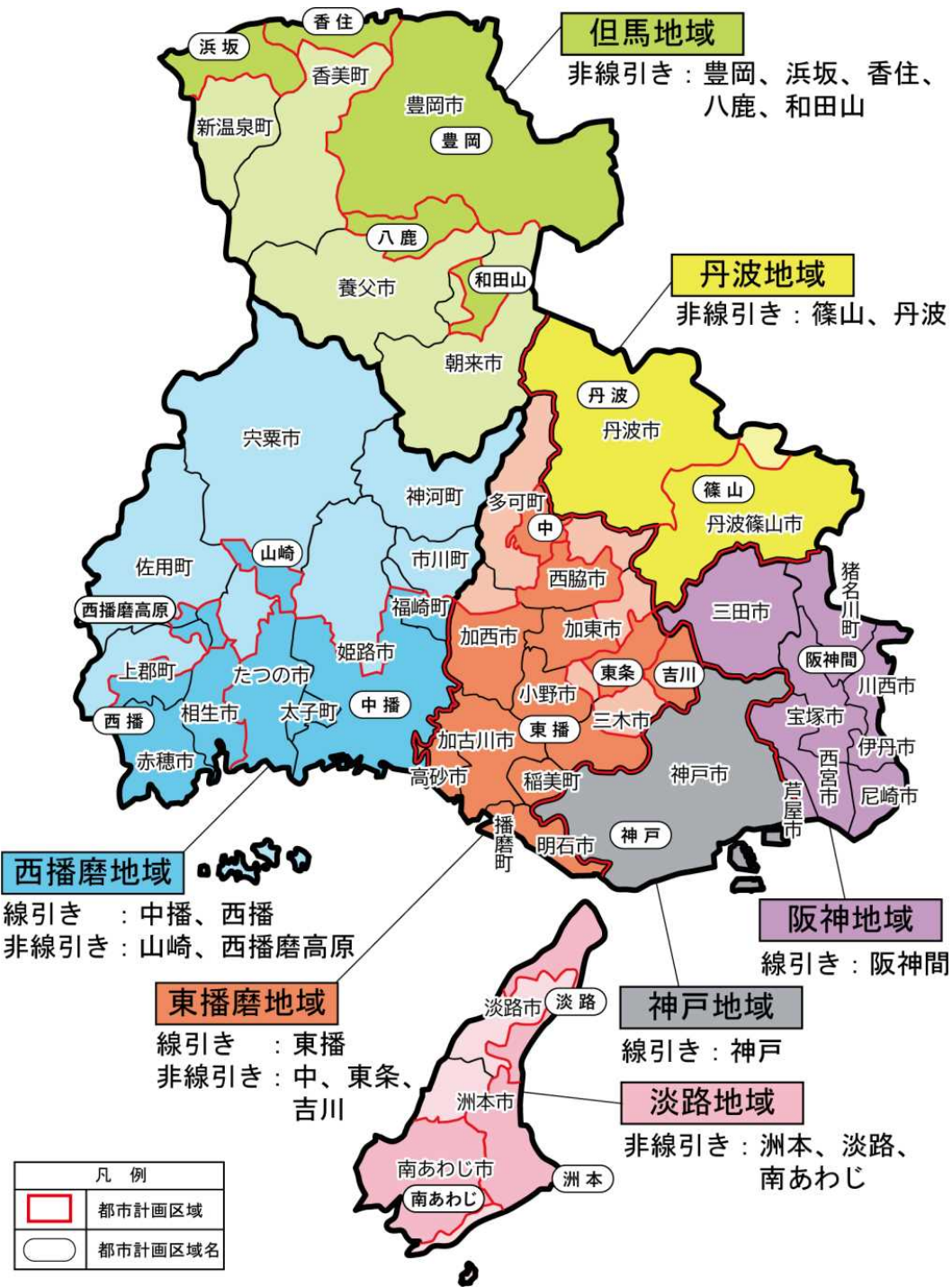
重点的に取り組むテーマ(4テーマ)

地域ごとの目指すべき都市づくりの主な方針

■ 都市計画区域マスタープランの策定単位

地域名	都市計画区域名	都市計画区域マスタープラン
神戸地域	神戸	○※(R4.1)
阪神地域	阪神間	○(R3.3)
東播磨地域	東播	○(R3.3)
	中	
	東条川	
西播磨地域	中播	○(R3.3)
	山崎	
	西播磨高原	
但馬地域	豊岡	○(R3.3)
	浜坂	
	香住	
	八鹿	
丹波地域	篠山	○(R3.3)
	丹波	
淡路地域	洲本	○(R3.3)
	淡路	
	南あわじ	

※ 神戸の都市計画区域マスタープラン等については神戸市が決定



地域ごとの目指すべき都市づくりの主な方針

(1) 阪神地域

① 地域の特徴

■ 地勢

- ・ 県南東部に位置し、東は大阪府、西は神戸・東播磨地域、北は丹波地域、南は大阪湾に面する約650km²の地域（可住地：約323km²、50%）
（南部）沿岸～中国道付近
- ・ 六甲山麓～武庫平野等の低地が面的に広がる
（北部）中国道以北
- ・ 北摂山系の山々が広がり、北西部に三田盆地

■ 土地利用

- （南部）
 - ・ 平野部を中心に住宅地を主体とする市街地が形成
 - ・ 住宅と農地が共存し、都市近郊農業が営まれている
 - ・ 臨海部の埋立地を中心に工業地帯（阪神工業地帯）が発達
- （北部）
 - ・ 能勢電鉄沿線や国道176号沿道の丘陵地にニュータウンが形成
 - ・ 三田駅周辺や神戸電鉄公園都市線沿線にニュータウンが形成
 - ・ 三田盆地や北摂山系の谷間に農業地帯が広がる（主に水田）

■ 人口

- ・ 約174万人（県全体の約32%）

■ 交通

（鉄道）

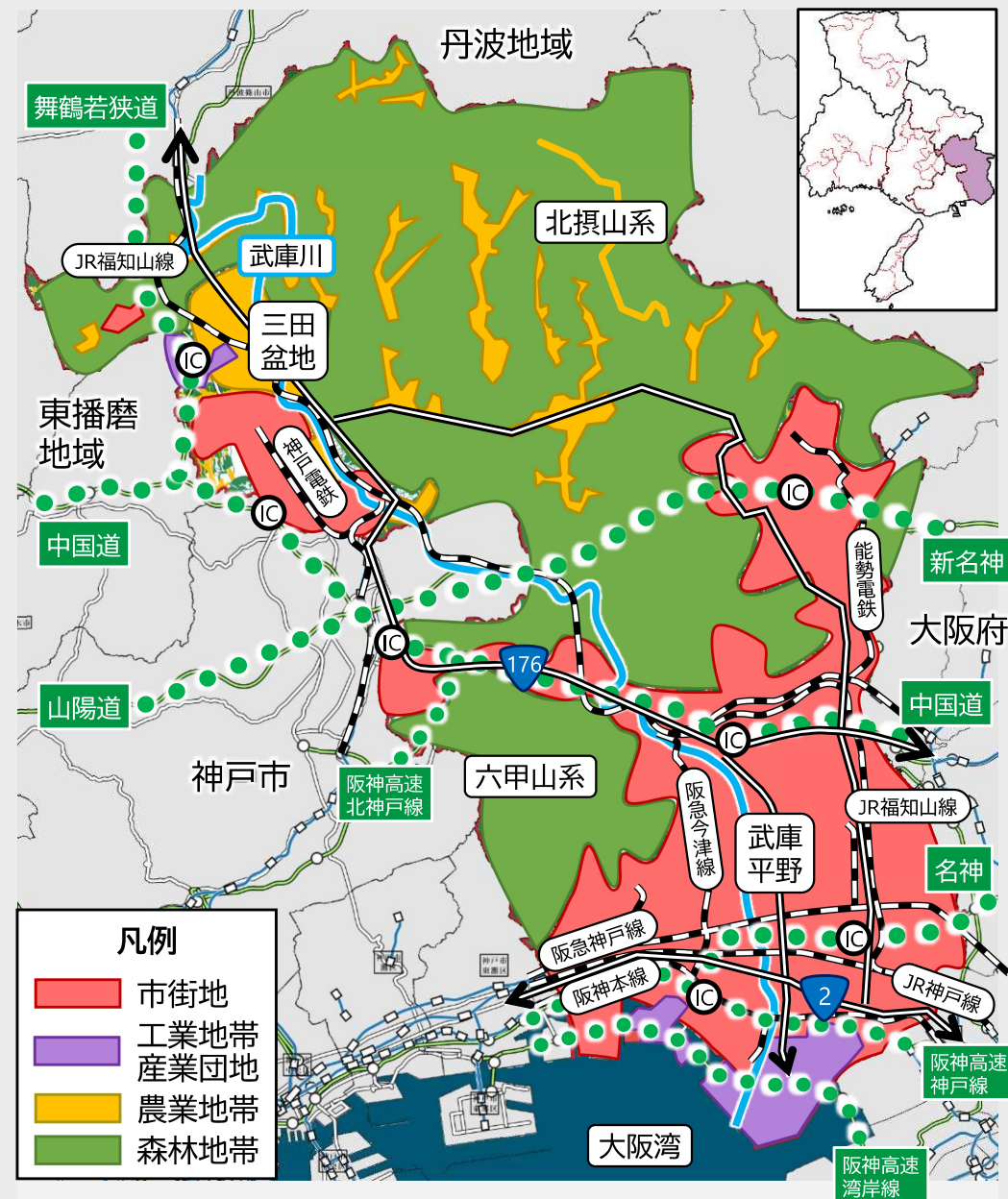
- ・ JR神戸線、阪急神戸線、阪神本線が東西を並走し大阪～神戸を結ぶ
- ・ JR福知山線、阪急今津線、能勢電鉄等が内陸部と臨海部を結ぶ

（基幹道路）

- ・ 東西方向には阪神高速神戸線等の高速道路のほか国道が整備され、南北方向には山陰、北陸方面に連絡する舞鶴若狭自動車道等がある

（バス）

- ・ 阪急バス、阪神バスなどが南北方向を中心に発達



(1) 阪神地域

② 地域の魅力・強み

■ 充実した交通網

- ・ 関西3空港へのアクセスに優れ、JR、阪急、阪神、能勢電鉄、神戸電鉄の各線による鉄道網が発達
- ・ 名神、新名神、阪神、中国道等の高速道路網が充実

■ 大阪や神戸のベッドタウンとしての人気

- ・ 大阪・神戸への通勤利便性の高い住宅地が形成(阪神地域の複数市が毎年、「住みたい街ランキング」に名を連ねている)
- ・ ファミリー層(0~14歳、30~49歳)人口は転入超過(R4:1,652人)(ex. 大阪府:▲3,972人、京都府:▲1,568人)
- ・ 大学等の高等教育機関が集積
- ・ 甲子園球場、宝塚大劇場等の地域資源を背景とした知名度

■ バイエリアのポテンシャル

- ・ 臨海部に金属、化学、食品など多様な製造業が展開(阪神工業地帯)
- ・ 大阪湾バイエリアの物流の一翼を担う「尼崎西宮芦屋港」
- ・ 2025年大阪・関西万博開催、2030年前後の神戸空港国際化、名神湾岸連絡線や大阪湾岸道路西神部の整備等による経済効果の期待

■ 都市近郊農業

- ・ 大消費地に近接する立地の優位性を生かした都市近郊農業
- ・ 葉物野菜、花木、いちじく等が代表的な地域ブランド

■ 身近で豊かな自然環境

- ・ 甲山森林公園、一庫公園、有馬富士公園など県立都市公園(広域公園)を有し、都市近郊で自然に親しめる環境が整備されている
- ・ 「北摂里山博物館構想」のもと、里山を保全する取組が推進されている



宝塚大劇場と阪急電車(宝塚市)



芦屋市の景観地区



尼崎臨海地域

③ 地域の課題

■ 土地利用に関する課題

(中心市街地の整備)

- ・ 密集市街地の整備による防災性の向上
- ・ 駅前等の都市機能更新による中心市街地の活性化

(工場跡地等の土地利用)

- ・ 工場等の撤退後、跡地にマンションや商業施設等が立地する土地利用転換が多く、周辺事業所の操業環境の悪化や、大規模集客施設の立地による周辺交通への影響が生じるおそれ

(オールドニュータウンの再生)

- ・ 郊外の大規模住宅団地等において、一斉に入居した住民の高齢化やインフラの老朽化が進展

■ 交通インフラの課題

- ・ 阪神高速3号神戸線の渋滞(都市高速道路で全国ワースト1位)

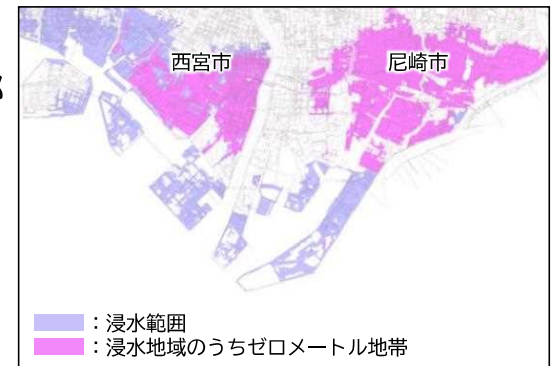
■ 浸水・土砂災害のリスク

(浸水のリスク)

- ・ 古くから氾濫を繰り返してきた武庫川などの河川や沿岸部に海拔ゼロメートル地帯があるなど、洪水、高潮、津波による甚大な被害のリスク

(土砂災害のリスク)

- ・ 急勾配の地形、崩れやすい地質から土砂災害リスクの高い六甲山麓等に市街地が形成



阪神間の南海トラフ地震による浸水想定区域

(1) 阪神地域

④ 都市づくりの主な方針【目指すべき都市構造】

- 隣接する神戸地域とともに県全体の活力を牽引する地域として、民間投資の積極的な活用等により都市機能の強化を図る
- 利便性の高い公共交通ネットワークを活かし、隣接する地区間での相互補完により都市機能の確保を図る

拠点

✓ 地域拠点

- 鉄道駅周辺等において商業・業務、医療、行政サービス等の都市機能の充実に加え、特色ある芸術・文化等の都市機能の集積を図る

✓ 生活拠点

- コミュニティバルでの商業、医療・福祉等の日常生活に必要なサービス等の確保を図る

✓ 産業拠点

- バイアリのほか、インターフェジ周辺など産業立地に適した地区において、計画的な産業集積を図る

交通ネットワーク

✓ 広域連携軸

- 阪神高速道路各線のほか、全面開通した新名神高速道路等を活用しつつ、名神湾岸連絡道路の整備等により大阪府を含む地域内外との連携強化を図る
- 国内外の交流や物流を促進するため、2030年をめどに国際線が就航する神戸空港を初めとする関西3空港及び阪神港へのアクセス強化を図る

✓ 地域内連携軸

- 鉄道、国道、県道等からなる地域内連携軸を形成し、広域連携軸へのアクセスや地域拠点、生活拠点の連携を強化する



(1) 阪神地域

④ 都市づくりの主な方針【目指すべき都市構造】

エリア

市街地

- 利便性の高い駅周辺の土地の高度利用や日常生活を営む身近なエリアにおける用途純化にとらわれない土地利用の見直し等により、高い人口密度を維持
- 職住近接のニーズ等に的確に対応した居住環境の更なる魅力向上を図り、京阪神地域における良好な住宅地としての都市の競争力を強化
- 大規模な工場の移転等が生じる場合は、企業と行政、住民との接点を確保しながら、適切な土地利用転換を促進し、望ましい市街地環境への誘導を図る
- 住宅地周辺等の農地について、消費地に近い食料生産地や農業体験を通じた住民の交流の場といった多様な機能が発揮されるよう、適切に保全し、地域資源としての活用を図る

市街地以外

- 地域主導による集落の機能維持や地域の活性化を促進するとともに、コミュニティバス等により地域拠点や生活拠点との連携を支え、活力を維持する
- 市街化調整区域において地域活力の維持・向上を図るため、「地区計画」の制度等を活用した計画的なまちづくりを推進する
- 猪名川渓谷県立自然公園等の山々、猪名川や武庫川等の河川等からなる広域的な水と緑のネットワークを維持・保全



(1) 阪神地域

④ 都市づくりの主な方針【重点テーマ】

1 市街地の整備と防災・減災対策の強化

- 都市計画法等の特例制度の活用等により大規模業務施設や都市型住宅などの民間投資を適切に誘導するとともに、既成市街地における空き家等の既存ストックの有効活用や低未利用土地の利活用を図る



JR西宮駅南西地区第一種市街地再開発事業

- 建築物の耐震化・不燃化及び延焼防止に資する緑地の整備、無電柱化、上下水道などのライフラインの耐震化等を推進



無電柱化整備状況(伊丹市)

3 住環境の高質化(子育て環境の充実)

- ニュータウンにおいて、既存ストックを活用し子育て世帯のニーズに応える住宅の供給を促進するとともに、用途地域等の見直しを通じて徒歩圏内に生活利便施設や子育て支援施設等の立地を誘導し、住宅地の持続可能性と価値を向上
- 駅前等の既成市街地において、都市機能更新に併せ、容積率緩和等の制度を活用し、住宅の供給を推進



ニュータウン(川西市)



三田駅前CITY第一種市街地再開発事業

2 大阪湾ベイエリアの活性化

- マリッジやアクティビティ拠点の形成等、大阪湾ベイエリアの活性化に向けた官民の取組と連携を図り、土地利用計画や規制を柔軟に見直す
- 工場跡地等の土地利用転換の動向を注視し、ベイエリアの活性化に資するよう適切に誘導する
- 名神湾岸連絡線等の整備を着実に進め、物流の効率化等を図る



臨海部の賑わい創出のイメージ



名神湾岸連絡線

4 グリーンインフラを活かした防災力の向上

- 土砂災害に対する市街地の安全性向上と緑豊かな都市環境、景観の創出等を目的とした六甲山系グリーンベルト整備事業等を推進し、自然緑地の保全と防災機能の強化を図る
- 猪名川や武庫川等の流域において、河川下水道対策に加え、都市農地の保全等を通じた雨水貯留浸透機能の確保など流域対策を推進する



グリーンベルト事業のイメージ
(国資料を一部加工)



水田貯留(三田市)

地域ごとの目指すべき都市づくりの主な方針

(2) 東播磨地域

① 地域の特徴

■ 地勢

- ・ 県中央部に位置し、東は神戸・阪神地域、西は西播磨地域、北は丹波地域、南は瀬戸内海に面する約1,162km²の地域（可住地：約624km²、54%）
- ・ 県内最大の流域面積を有する加古川が中央を南北に流れる（沿岸～山陽道付近）
- ・ 播州平野が広がり、東部に日本有数のため池密度を誇る印南野台地（山陽道～中国道付近）
- ・ 青野ヶ原台地を挟んで東西にそれぞれまとまった平坦地が広がる（中国道以北）
- ・ 山地が主体で、加古川・杉原川に沿って谷底平野が形成

■ 土地利用

- （沿岸～加古川バイパス）
- ・ JR山陽本線、山陽電鉄、国道2号等に沿って帯状に市街地が連たん
- ・ 沿岸の埋立地に重化学工業が発達（播磨臨海工業地域）
- （加古川バイパス以北）
- ・ 平坦地に農業地帯（主に水田）が広がり、島状に市街地が形成
- ・ 神戸電鉄粟生線沿線の丘陵地にニュータウンが形成（三木市）
- ・ 中国道、山陽道のインターチェンジ周辺に産業団地が形成
- ・ 東部の丘陵地にゴルフ場が多数（三木市は25ヶ所で西日本最多）

■ 人口

- ・ 約97万人（県全体の約18%）

■ 交通

（鉄道）

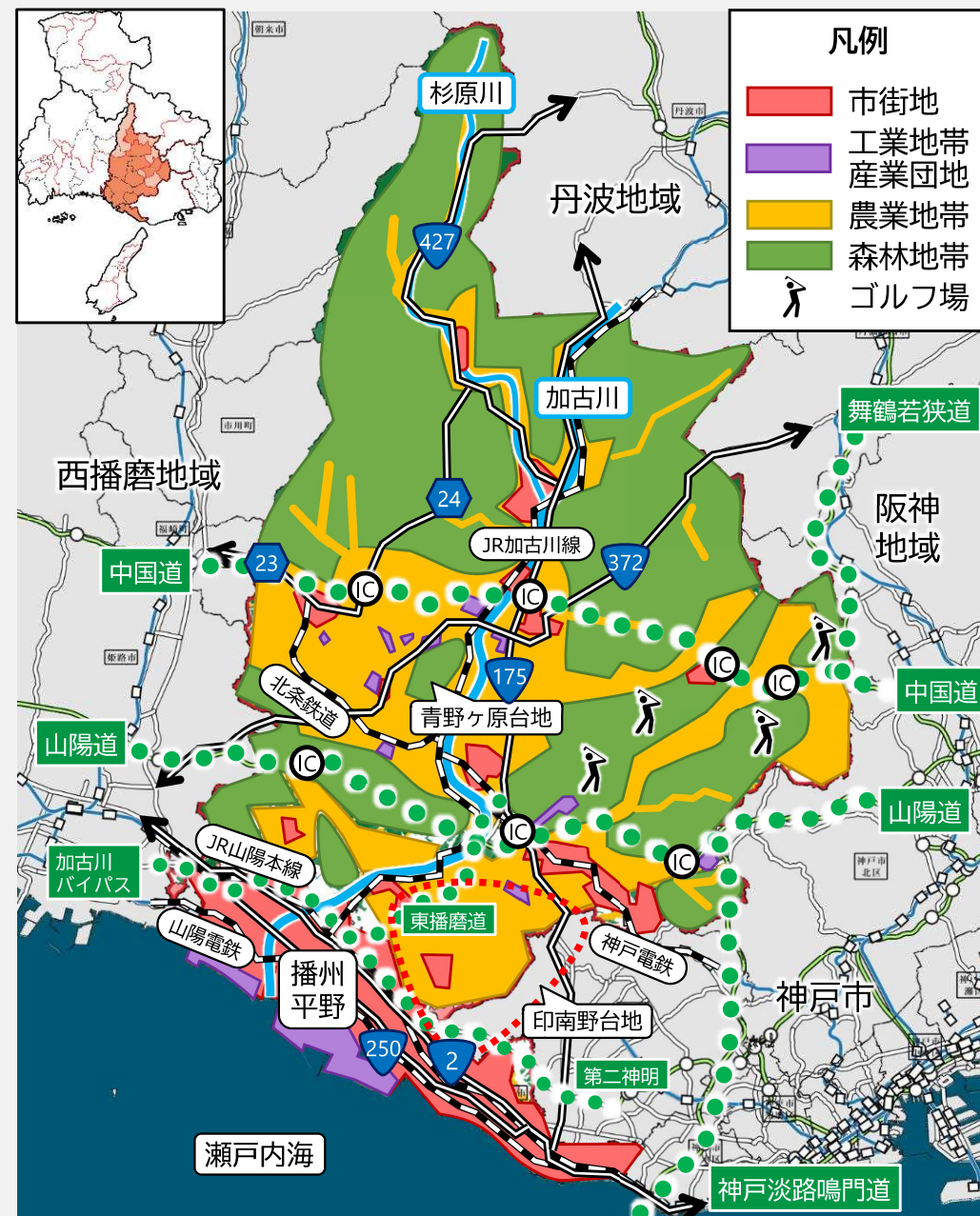
- ・ JR山陽本線・山陽電鉄が東西方向に並走し、JR加古川線が南北を縦断
- ・ 神戸電鉄粟生線・北条鉄道が内陸の市街地を結ぶ

（基幹道路）

- ・ 東西方向には中国道・山陽道のほか加古川バイパス等の自動車専用道路
- ・ 南北を国道175号が縦断、国道372号が姫路～丹波篠山へ連絡
- ・ 東播磨道が臨海部と内陸部（国道175号）を結ぶ（R7年開通予定）

（バス）

- ・ 内陸部を中心に神姫バスの路線が発達し、神戸・大阪方面へ連絡



(2) 東播磨地域

② 地域の魅力・強み

■ 県内有数の水田農業地域

- 加古川流域には播州平野が広がり、東条湖や翠明湖などから安定した水を供給する疏水やため池が整備されるなど、豊かな農業地域である
- 内陸部は酒米「山田錦」の国内最大の生産地であり、県内有数の水田農業地域となっている

■ 発達した交通網

- 中国道・山陽道が東西に横断し、舞鶴若狭道、神戸淡路鳴門自動車道に接続する東西南北の結節点として交通利便性が高い
- 東播磨道(地域高規格道路、R7全線開通予定)、西脇北バイパス(地域高規格道路)など地域内の南北交通の強化が進む
- 臨海部では東西方向の鉄道網が充実し、神戸・阪神間や姫路地域への交通の便が良く、住宅地としての需要も高まっている

■ 匠の技術が生きるものづくり産業

- 臨海部には鉄鋼、化学工業などの装置型産業が集積
- 内陸部は伝統的に地場産業(播州織、金物、釣針等)が盛んであり、平坦な地形と高速道路網を背景に産業団地が多数形成されている

■ 多彩な公園とスポーツ環境

- 明石公園、播磨中央公園、三木山森林公園、三木総合防災公園、三木ホースランドパーク、県立フラワーセンターなど多彩な公園施設
- 内陸部は全国有数のゴルフ場が立地する地域であり、青野運動公苑などスポーツリゾートも充実



田園風景(西脇市)



加西インター産業団地(加西市)



明石公園(明石市)

③ 地域の課題

■ 土地利用に関する課題

(都市機能の配置)

- 商業施設、文化施設等の多くが幹線道路沿いなどに分散して立地しており、明石駅など一部を除いて駅周辺への都市機能の集積が十分でない
- 内陸部では、臨海部に比べ都市機能の集積度は低い

(市街化調整区域の土地利用)

- 内陸部では、合併前の旧町村中心部も含め面積で約9割を占める市街化調整区域に人口の4割以上が居住していることから、地域の活力維持に資する土地利用が求められている

■ 交通インフラの課題

- 加古川バイパス、国道2号、国道250号等において、朝夕の通勤時間帯を中心に渋滞が慢性化
- JR加古川線、神戸電鉄粟生線、北条鉄道の利用者数が低迷

■ 水害のリスク

- 地球温暖化に伴い異常気象が頻発が予測されており、加古川水系等の氾濫による水害のリスクが高まっている

平成30年豪雨被害(北播磨地域)
 床上・床下浸水 / 約100件
 農地・ため池破損 / 約700カ所
 農産物等被害額 / 約36億6千万円

■ 地場産業の継承

- 播州織、利器工匠具(大工道具)の事業所数は近年減少傾向にあり、とりわけ播州織はコロナ禍の影響を受け、生産額の落ち込みが大きくなっている

東播都市計画区域における市街化調整区域の面積・人口比率(R4.3)

	比率	
	面積	人口
東播都市計画区域	78.0%	17.2%
東播磨地域	57.7%	9.5%
明石市	21.3%	2.0%
加古川市	70.9%	16.3%
高砂市	37.0%	3.1%
稲美町	90.7%	53.3%
播磨町	7.6%	1.4%
北播磨地域	91.3%	43.6%
三木市	83.1%	22.9%
小野市	92.8%	59.0%
加西市	95.1%	68.1%
西脇市	92.2%	39.9%
加東市	90.8%	39.5%

(2) 東播磨地域

④ 都市づくりの方針【目指すべき都市構造】

- 臨海部では神戸市や姫路市との役割分担に留意しつつ、地域全体での都市機能の集積や基幹産業や新産業の立地を促進する
- 内陸部では、隣接する地域拠点において都市機能の相互補完を図るとともに、IC周辺等において産業団地の形成を促進する

拠点

✓ 地域拠点

- 臨海部では明石駅や加古川駅等、地域全体を対象とした複合的な都市機能の集積を図る
- 内陸部では鉄道駅、官公庁周辺等において都市機能の相互補完等も勘案し、地域全体での都市機能の確保を図る

✓ 生活拠点

- コミュニティでの商業、医療・福祉等の日常生活に必要なサービス等の確保を図る

✓ 産業拠点

- 播磨臨海地域のほか、IC等広域交通結節点周辺など産業立地に適した地区において、計画的な産業集積を図る

交通ネットワーク

✓ 広域連携軸

- 神戸西バypassや播磨臨海地域道路の整備により広域拠点である神戸、姫路を含む東西方向の交通ネットワークの更なる強化を図る
- 本地域と丹波地域を結ぶ東播磨道や東播丹波連絡道路の整備により南北方向の交通ネットワーク強化を図る
- JR-加線等の鉄道の維持を図る

✓ 地域内連携軸

- 鉄道、国道、県道等からなる地域内連携軸を形成し、広域連携軸へのアクセスや地域拠点、生活拠点の連携を強化する



(2) 東播磨地域

④ 都市づくりの方針【目指すべき都市構造】

エリア

✓ 市街地

- ・ 臨海部では、利便性の高い駅周辺等において、高度利用や、用途純化にとられない土地利用の見直し等により、一定の人口密度を維持
- ・ 内陸部では、低未利用土地の整備や交通結節機能の強化、拠点における都市機能の維持・誘導を図り、個性と魅力あるまちづくりを推進
- ・ 環境への負荷軽減や良好な景観形成、災害時の防災空間等に資する都市農地の保全と活用を推進

✓ 市街地以外

- ・ 地域主導による集落の機能維持や地域の活性化を促進するとともに、コミュニティバス等により地域拠点や生活拠点との連携を支え、活力を維持する
- ・ 区域区分を設定している都市計画区域においては、原則これを維持しつつ、地域活力の維持・向上を図るため、特別指定区域や地区計画の制度等を活用した計画的なまちづくりを推進
- ・ 市街化調整区域の面積・人口比率が高い内陸部においては、必要に応じ、地域の特性やニーズに応じたスピーディな土地利用を実現し地域活力の維持を図るため、影響調査の結果等を踏まえ、「農」との健全な調和を前提として、区域区分に代わる市町が主体となった土地利用コントロールへの移行を検討
- ・ 播磨中部丘陵県立自然公園等の山々、加古川等の河川等からなる広域的な水と緑のネットワークを維持・保全



(2) 東播磨地域

④ 都市づくりの方針【重点テーマ】

1 都市機能の充実と交通ネットワークの維持・強化

- 明石駅や加古川駅等以外の公共交通軸上の拠点など日常生活を営むエリアにおいても身近な都市機能の立地誘導や確保を図る
- 地域と駅を結ぶ移動手段(デマンド交通等)の強化や、パーク&ライドの推進、自転車駐輪場の整備、サイクルレインの運行等、二次交通の充実によりJR加古川線、神戸電鉄粟生線等の鉄道利用を促進し、公共交通ネットワークを維持する
- 播磨臨海地域道路や西脇北バイパスの整備を着実に進め、渋滞緩和や物流の効率化を図る



JR土山駅前の都市型商業施設(播磨町)



播磨臨海地域道路

2 「農」の保全と健全な調和

- ため池の適切な管理・保全や各法令に基づく重層的な土地利用規制等により農地の保全を図る
- 産業団地等の開発需要に対しては、農業の生産性の確保と景観保全の観点から、都市的土地利用と農業的土地利用の適切なゾーニングのもと、「農」との健全な調和を前提とした計画的な土地利用を図る



加古大池と農地(稲美町)



ひょうご小野産業団地のイメージ

3 伝統と次世代の産業を推進

- 播磨臨海地域等において脱炭素化に向けた水素等の新エネルギーなど、次世代成長産業をはじめとする企業の立地や投資を促進する
- 播州織や金物等の伝統あるものづくり産業が立地する職住近接の地域においては、住環境と操業環境に配慮した土地利用を誘導するとともに、地域産業の振興を図る



播磨臨海地域(東播磨港)



播州織工房館(西脇市)

4 加古川流域治水の推進

- 加古川等において河川改修等の事前防災対策を推進する
- 休耕田を活用した遊水池の整備、農地やため池等における雨水貯留浸透機能の確保、水源の涵養の必要性等を考慮した土地利用等、総合的な治水対策を推進する
- 加古川の特定都市河川指定やそれと連動した浸水被害防止区域の指定等を検討するなど、水害リスクを踏まえたまちづくりを推進する



特定都市河川法の制度・施策の概要

(3) 西播磨地域

① 地域の特徴

■ 地勢

- ・ 県西部に位置し、東は東播磨地域、西は岡山県、北は但馬地域／鳥取県、南は瀬戸内海に面する約2,432km²の地域（可住地：約615km²、25%）
- ・ 市川、夢前川、揖保川、千種川等が南北に流れる（沿岸～山陽道付近）
- ・ 播州平野等の平地が広がり、揖保川河口～千種川河口に自然海岸が続く（山陽道以北）
- ・ 中国山地の山々が連なり、市川水系、揖保川水系等に谷底平野が形成

■ 土地利用

- （沿岸～山陽道付近）
- ・ 市川、夢前川、揖保川下流の播州平野に姫路を中心とする市街地が連たん
- ・ 西部に相生、赤穂の市街地が島状に点在
- ・ 沿岸の埋立地を中心に重化学工業が発達（播磨臨海工業地域）（山陽道以北）
- ・ 谷底平野に農地が広がり、福崎、山崎、新宮、上郡等の市街地が分布
- ・ たつの市、上郡町、佐用町に跨がり播磨科学公園都市（光都）が整備

■ 人口

- ・ 約80万人（県全体の約15%）

■ 交通

（鉄道）

- ・ JR山陽本線、赤穂線、山陽電鉄本線等が臨海部を東西に連絡
- ・ JR播但線、姫新線、智頭急行が内陸部と臨海部を結んでいる

（基幹道路）

- ・ 東西方向には中国道・山陽道のほか姫路バイパス等の自動車専用道路
- ・ 南北方向には播但道、播磨道・鳥取道のほか、国道29号が鳥取へ連絡

（バス）

- ・ 神姫バス等が姫路駅、相生駅、山崎等を拠点に地域内外を連絡
- ・ 中国道を利用した高速バスが福崎、山崎等の内陸部の都市と大阪、神戸、津山（岡山県）等を結んでいる



(3) 西播磨地域

② 地域の魅力・強み

■ 播磨地域の中心都市 姫路

- 歴史的に播磨地域の中心として発展し、姫路市を中心とした交通網が整備され、3次救急医療など広域的な都市機能が集積

■ 多彩なものづくり産業

- 播磨臨海地域には発電・鉄鋼・化学など基幹産業が集積し、製造品出荷額は大阪市、横浜市などを凌ぐ約6.7兆円(東播磨地域を含む)
- そのほか、全国的に高いシェアを持つ地場産業が多い(皮革、手延素麺、薄口醤油、マッチ等)

■ 豊富な歴史的遺産

- 世界遺産である国宝姫路城をはじめ、書写山圓教寺、斑鳩寺等の名所、白旗城や利間城等の130ヶ所を超える城跡のほか、龍野等の城下町、坂越や平福等の宿場町等の歴史的なまちなみ、銀の馬車道等の近代化産業遺産など歴史的建造物や文化財の宝庫

■ 美しい自然景観

- 北部の千種川源流や砥峰高原、中央部の書写山、南部の播磨灘等、山・川・海の美しい自然景観に恵まれている

■ 最先端の科学技術基盤

- 播磨科学公園都市では、世界最高性能の大型放射光施設「Spring-8」等の放射光施設と、これらを活用した最先端の研究開発を行う学術研究機関、ナノテクノロジー関連産業等の先端企業が集積しているほか、粒子線医療センター等の最先端医療機関が立地している



姫路駅前(姫路市)



万葉の岬(相生市)



Spring-8(たつの市)

③ 地域の課題

■ 土地利用に関する課題

(都市機能の補完・連携)

- 都市機能が姫路市に集中しており、市町間における補完・連携が必要

主な都市機能の集積状況(R4)

	姫路市	相生市	赤穂市	宍粟市	たつの市	市町	福崎町	神河町	本町	上郡町	佐用町
高度医療機関 ・拠点病院 ・救急医療体制	26	3	4	1	6	0	0	1	0	0	2
大学・大学院 短期大学	7	0	2	0	0	0	1	0	0	2	0
文化 スポーツ施設	65	6	19	15	21	7	9	6	6	5	15
百貨店 SC	13	2	2	5	3	0	0	1	0	0	1
鉄道駅 コミュニティバス路線	35 4	4 0	5 2	0 0	6 2	2 3	1 4	3 1	0 0	4 3	8 1

■ 人口減少・高齢化に対応した地域活力の維持

- 人口減少・高齢化に伴い、増加する空き家・空き地、耕作放棄地の対応や、日常生活の利便性の確保などの対応が必要
- 特に、山間部に点在する集落においては、コミュニティの維持が必要

■ 臨海部の工業地帯からのCO₂排出

- 播磨臨海地域にはエネルギー多消費型の産業が集積し、CO₂排出量は2013年度で3,875万トン(県全体の半分以上)

■ 観光地へのアクセス

- 姫路駅をハブとした扇状の交通網(姫路経由の公共交通)しかなく、郡部の観光地へ行くには二次交通が課題

■ 地場産業の継承

- 手延素麺、醤油、皮革の事業所数及び生産額は2010年以降いずれも減少傾向

(3) 西播磨地域

④ 都市づくりの主な方針【目指すべき都市構造】

- 姫路市中心部の広域拠点において都市機能の更新・強化を図り、県西部の活性化を牽引する
- 交通ネットワークによる拠点間の連携強化により、都市機能の相互補完を行い、地域全体での都市機能を確保する

拠点

✓ 広域拠点

- 芸術・文化等も含む高次都市機能や産業機能の強化、姫路城を活かした国際観光拠点都市として魅力向上を図る

✓ 地域拠点

- 広域拠点や地域拠点間の連携強化と適切な役割分担に配慮し、都市機能の代替又は相互補完も勘案して地域全体で都市機能の確保を図る

✓ 生活拠点

- コミュニティでの商業、医療・福祉等の日常生活に必要なサービス等の確保を図る

✓ 産業拠点

- 播磨臨海地域のほか、インターフェジ周辺など産業立地に適した地区において、計画的な産業集積を図る

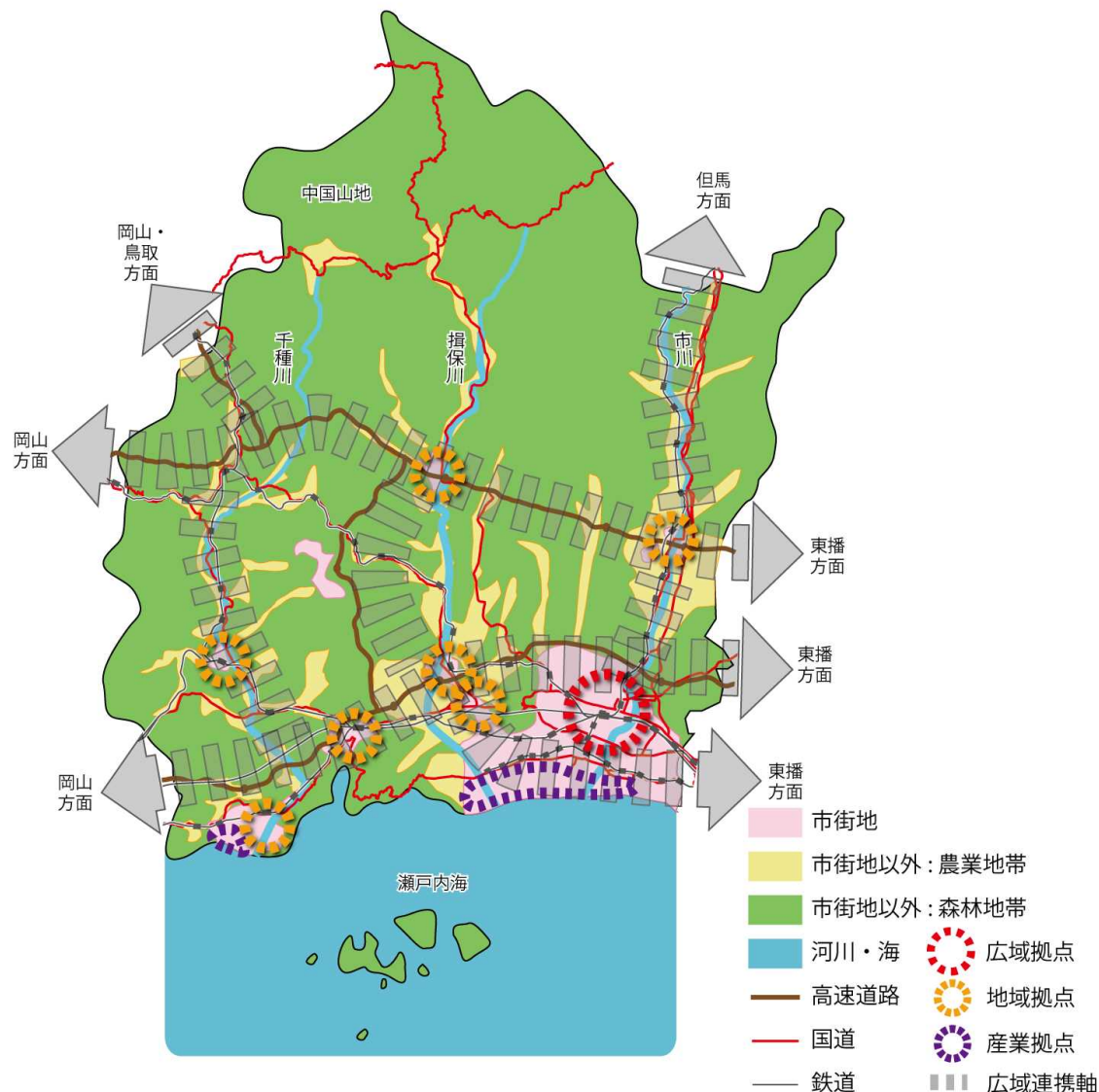
交通ネットワーク

✓ 広域連携軸

- 中国自動車道等のほか、播磨臨海地域道路の整備により東西方向の交通ネットワークの更なる強化を図る
- 中国横断自動車道姫路鳥取線(R3開通)により播磨科学公園都市の有する先端技術機能等の広域的な活用を促進
- JR0-加線等の鉄路の維持を図る

✓ 地域内連携軸

- 鉄道、国道、県道等からなる地域内連携軸を形成し、広域連携軸へのアクセスや地域拠点、生活拠点の連携を強化する



(3) 西播磨地域

④ 都市づくりの主な方針【目指すべき都市構造】

エリア

✓ 市街地

- 姫路市では、利便性の高い駅周辺等において、高度利用や、用途純化にとらわれない土地利用の見直し等により、高い人口密度を維持
- 内陸部や姫路市より西の地域では、低未利用土地の整備や交通結節機能の強化、拠点における都市機能の維持・誘導を図り、個性と魅力あるまちづくりを推進
- 環境への負荷軽減や良好な景観形成、災害時の防災空間等に資する都市農地の保全と活用を推進

✓ 市街地以外

- 地域主導による集落の機能維持や地域の活性化を促進するとともに、コミュニティバス等により各拠点との連携を支え、活力を維持する
- 区域区分を設定している都市計画区域においては、原則これを維持しつつ、地域活力の維持・向上を図るため、特別指定区域や地区計画の制度等を活用した計画的なまちづくりを推進
- 市街化調整区域の面積・人口比率が高い内陸部や姫路市より西の地域においては、必要に応じ、地域の特性やニーズに応じたスピーディな土地利用を実現し地域活力の維持を図るため、「農」との健全な調和等を前提として、区域区分に代わる市町が主体となった土地利用コントロールへの移行を検討
- 都市計画区域外等においては、各法令等に基づく森林や農地等の保全のほか、緑条例の制度等を活用した規制・誘導を図る
- 西播丘陵県立自然公園等の山々、揖保川等の河川等からなる広域的な水と緑のネットワークを維持・保全



(3) 西播磨地域

④ 都市づくりの主な方針【重点テーマ】

1 広域都市機能の分担・連携

- 広域拠点の姫路市において、高度の医療や教育機関等の広域都市機能の維持・強化を図るとともに、その他の市町においては、広域拠点と連携した商業等の地域都市機能の充実を図る
- 市町間の交通ネットワークの維持・強化を図る。特に赤字路線となっているJR姫新線においては、駅舎や駅周辺の個性と魅力あるまちづくりを推進し、公共交通の維持を図る



県立はりま姫路総合医療センター(姫路市)



JR姫新線(姫路市・たつの市・佐用町)

2 伝統と次世代の産業を推進

- 播磨臨海地域等において脱炭素化に向けた水素等の新エネルギーなど、次世代成長産業をはじめとする企業立地・投資を促進する
- 皮革や醤油等の伝統あるものづくり産業が立地する職住近接の地域においては、住環境と操業環境に配慮した土地利用を誘導するとともに、地域産業の振興を図る



播磨臨海地域(姫路港)



揖保乃糸資料館「そうめんの里」(たつの市)

3 広域的な滞在型観光の促進

- 龍野や赤穂等の歴史的な城下町、地域内の美しい自然景観等を保全、活用し、国宝姫路城を核とした広域的な滞在型観光を促進する
- 道路網の整備や鉄道の維持・活用等により一次交通の充実を図るとともに、ラストマイルを担うグリーン・モビリティやレンタルサイクル等の二次交通の整備を推進する



姫路城(姫路市)



坂越のまちなみ(赤穂市)

4 集落の地域コミュニティ維持

- 集落と市内の拠点を結ぶ公共交通について、地域の利用実態やニーズ等を踏まえつつ、特性に応じた公共交通等の充実を促進する
- 集落の地域コミュニティを支える拠点において、生活サービス機能の集約・維持を図るとともに、デジタルを活用した遠隔医療・教育、ドローン宅配等の導入も検討する
- 空き家や農地等を活用した地域住民や都市住民との交流、二地域居住や移住定住等の促進を図る



デマンド型乗合タクシー(たつの市)



耕作放棄地を活用した地域住民によるサンショウの栽培(太子町)